

日本都市社会学会ニュース

NO. 94 (2013. 3. 31)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒480-1198 長久手市茨ヶ廻間 1522-3

愛知県立大学大学教育福祉学部 山本かほり研究室内

e-mail : usocio11@ews. aichi-puac.jp

FAX : 0561-64-1107

(振替口座 : 00140-4-703976)

URL : <http://urbansocio.sakura.ne.jp>

歓迎の言葉

徳野貞雄 (熊本大学)

第31回日本都市社会学会を、熊本大学(2013年9月14日・15日) 於：黒髪キャンパス・全学教育棟でお引き受けすることになりました。多くの皆さまにご参加いただき、充実した大会になりますように念じています。

熊本大学には、複数の学部に社会学の研究者がいますが、なぜか日本都市社会学会の会員は私一人のようです。今回の大会は、私が所属する文学部の地域社会学研究室を軸にお世話させていただきます。十分なことはできませんが、よろしく願いいたします。

大会を五高記念館の横の全学教育棟2Fフロアで、懇親会を熊本城のライトアップが真正面に見える熊本市役所14Fのダイニングカフェ『彩』で計画しております。また、大会終了後～16日にかけて阿蘇へのエクスカージョンを企画しております。ふるってご参加ください。

熊本市は、昨年度、20番目の政令指定都市に滑り込んだ人口73万人のマチです。私見で申し訳ありませんが、都市と言うよりも巨大なマチと言う印象が強いです。何しろ熊本城が大きくて立派すぎます。西南戦争で西郷隆盛が攻めあぐんだ熊本城は、現代でも熊本市の都市開発・発展を空間的・物理的にすべて、堀と石垣で防いでおります。江戸期の熊本はさておき、近代の熊本も熊本城を軸に複合型の行政都市の性格が強いです。明治期に九州の国内拠点として、財務局、法務局、農政局、通信局、軍(鎮台・師団・西部総監部)および第五高等学校(熊大の前身)が置かれています。ただ、近代化・産業化と大陸をにらんだ国家政策の転換により、以降運輸局、建設局、経産局等は福岡市に作られましたが、依然国家公務員のマチとしての性格も強いです。

熊本大学は、法・文・教育・医・薬・工・理の7つの学部と大学院からなる総合大学ですが、なぜか農学部と経済学部はありません。全国の地方国立大学で農学部と経済学部の両方を持たない大学は、熊本大学と秋田大学だけです。なぜ、農業県の熊大に農学部がないのかは、夏目漱石先生にでも聞かなければ判りません。なお、大会会場である全学教育棟には漱石先生のブロンズが鎮座しておりますし、横の五高記念館には小泉八雲や嘉納治五郎等のゆかりの品が展示されています。休憩時間等を利用して、是非ご覧ください。

皆様方のご来校を心よりお待ちしております。

日本都市社会学会 第31回大会開催について

1. 期間および主会場

期間：2013年9月14日(土)～9月15日(日)

会場：熊本大学 黒髪キャンパス

2. 交通のご案内

熊本大学への公共交通手段は下記をご参考になさってください。

JR 熊本駅から	産交バス：楠団地，武蔵ヶ丘等（子飼橋経由）「熊本大学前」下車 都市バス：第一環状線 [駅2]（大学病院・大江渡鹿経由）「子飼橋」下車徒歩10分 市電+産交バス：市電の健軍行きに乗車し「水道町」で下車。産交バスへ乗換。水道町バス停より，楠団地，武蔵ヶ丘等（子飼橋経由）「熊本大学前」下車
JR 上熊本駅から	都市バス：第一環状線 [駅1]，昭和町線（子飼橋経由）「子飼橋」下車徒歩10分
熊本空港から	空港リムジンバス熊本駅行き「通町筋」下車， 「水道町」から産交バスで楠団地，武蔵ヶ丘等（子飼橋経由）「熊本大学前」下車
交通センターから	(13番のりば) 産交バス：楠団地，武蔵ヶ丘等（子飼橋経由）「熊本大学前」下車
JR 竜田口駅	産交バス：交通センター行き「熊本大学前」下車

3. 宿泊のご案内

熊本市内には、100件近くのホテル・旅館がありますので、楽天トラベル (<http://travel.rakuten.co.jp/>)，じゃらん (<http://www.jalan.net/>) 等，宿泊サイトを参照の上，ご予約ください。熊大や懇親会場に近い代表的なホテルの一覧をお知らせします。

- 1, 熊本キャスルホテル
- 2, 熊本全日空ホテルニュースカイ
- 3, アークホテル熊本城前
- 4, 熊本東急イン
- 5, 東横イン (3か所)
- 6, スーパーホテル
- 7, 熊本 和数奇 司館

4. 阿蘇エクスカージョンのお知らせ

第31回大会終了後，阿蘇へのエクスカージョンを予定しています。大まかな予定は以下の通りです。阿蘇の大自然と温泉地獄と水源を組み合わせたものです。

※宿泊する木魂館は，小国町の（財）学びやの里と言う北里柴三郎博士の記念研修施設ですので，普通の旅館・ホテルではありません。九州ツーリズム大学の拠点施設です。温泉と酒と夜なべ談義は準備できますが，個室は準備できません。宿泊の遊学寮は，2段ベットの蚕棚が主になります。定員は，30名ほどを予定しております。経費も飲み放題で，学生10,500円，一般11,700円を見積もっていますが，人数によって変更もあります。16日の阿蘇山頂からの帰りは，午後2時ごろ熊本空港とJR大津駅に着きます。

大まかなスケジュールは下記の通りです。

●9月15日（日曜日）			
時間	スケジュール	場所	備考
17:00～	熊本大学発30名程 木魂館へ	熊本大学	
途中大観峰にて見学			
19:00	木魂館着（遊学寮前下車）	木魂館	

19:00~19:30	チェックイン・荷物・部屋確認	游学寮	
19:30~	食事・懇親会 入浴	バラ	飲み物込
就寝		游学寮	
●9月16日(月曜日)			
時間	スケジュール	場所	備考
8:00~	朝食	バラ	
9:00~	木魂館発 はげの湯・岳の湯で地獄見学→ 産山村池山水源で見学		昼の弁当積込み
11:00		阿蘇山見学	
12:00~	昼食(弁当)・熊本空港へ	場所未定	
14:00~	熊本空港着 解散	熊本空港	

●費用(バス代, 宿泊費, 食費, 見学代込み 概算)

一般会員: 11700円 学生会員: 10500円

※参加ご希望の方は2013年8月20日までに学会事務局(usocio11@ews.aichi-pu.ac.jp)まで、e-mailにてご連絡ください。

会員の皆様へのお知らせ

1. 自由報告の募集 ※申し込み方法にご注意ください

第31回大会の自由報告を募集します。どうぞ奮ってお申し込みください。

なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7月発行の「学会ニュース」(第95号)に自由報告要旨を掲載することになっております。

自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。

(1)自由報告の申し込みおよび報告要旨の提出方法(締め切り:2013年6月2日(日))

次の①~⑤をA4サイズ1枚に記し、保存した文書ファイルを、6月2日(日)午後6時までに学会事務局(usocio11@ews.aichi-pu.ac.jp)宛に、E-mailに添付してお送りください。なお、ファイル名は、報告要旨は「31jiyu***」、報告の申し込みは「31apply***」(***は報告者の名前をローマ字で例)31jiyuyamamoto, 31applyyamamoto)としてください。また、提出後の修正は受け付けません。

①報告タイトル(仮題は不可です)、②報告者氏名・所属(共同報告の場合は登壇者に○をつける)、③報告要旨(50字×20行以内を厳守)、④発表時に使用する機材、⑤連絡先(郵便番号・住所・電話番号・E-mailアドレス)

なお、使用する機材については、会場の都合により不可能となる場合もあります(パワーポイントを使用する場合、PCは持参していただきます)。また、申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

(2) 注意事項（必ずお守りください!）

共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては、学会ホームページをご覧ください。添付ファイルは、原則としてテキスト形式とします。ただし、Microsoft Windows を基本ソフトとするパソコンで作成したものに限り、「Microsoft Word (2003, 2007)」形式でも結構です。

- ①「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみで作成してください（学会ニュース1ページに2報告の要旨を掲載します）。
- ②この要領に反し、本文が1行50字で20行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内で訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。
- ③なお、大会当日にレジュメ/資料を配布する場合は、各自で別途ご用意ください。

<自由報告申し込みと報告要旨原稿の提出>

締め切り：6月2日（日）午後6時までに事務局必着

申し込み・報告要旨原稿提出の方法：E-mailによる

申し込み・報告要旨原稿提出先：学会事務局 usocio11@ews.aichi-pu.ac.jp

2. テーマ報告部会「都市と自治体政策」報告者の募集について

近年の地方分権の一定の進展は、都市自治体の政策領域を拡大し、それぞれの歴史的・経済的・社会的文脈のなかで多様な政策実践を展開しています。人口減少や高齢化の進展する都市では地域活性化をめぐる政策が模索されていることや、過去に公害を経験した都市では環境政策が実践されていることはその一例といえるでしょう。あるいは、それぞれの自治体に取り組んでいる「協働」にも、多種多様な試みがあります。こうした動向を、都市社会学のなかでどのように位置づけるかが問われています。

そこで本年度のテーマ報告部会では、自治体の政策展開に関する研究成果を共有するとともに、その成果をどのように活用するかを検討していきたいと考えています。

自治体政策研究は、都市社会学に固有の研究対象ではありません。社会学のなかだけでも数多くの分野で研究が蓄積されています。さらには、政治学、行政学、経済学、地理学など、社会学以外の分野で研究が大きく進展しています。こうした都市社会学以外、さらには社会学以外の領域からの報告も歓迎します（ただし、希望者多数の場合は、自由報告に回っていただくことがあります）。

なお、報告は日本都市社会学会会員に限ります。非会員の方は、報告申し込みと同時に入会手続きを行ってください。

○申し込み締め切り：2013年5月13日（月）18時

件名に「テーマ報告部会申し込み」と明記の上、氏名、所属、連絡先、報告題目をメールでお知らせください

○報告要旨提出の締め切り：2013年6月2日（日）18時

○申し込み先：日本都市社会学会事務局（usocio11@ews.aichi-pu.ac.jp）

○本件に関する情報は随時、日本都市社会学会のホームページにアップされますので、ご覧ください。また、お問い合わせは高木（takagi@rikkyo.ac.jp）までお願いいたします。（企画委員 高木恒一）

3. 理事会報告

2012-13年度 第2回理事会が、3月3日（日）午後3時から愛知県立大学サテライトキャンパスにて開催されました。企画委員会報告では、2013年度大会のシンポジウムおよび準備状況について報告がなされました。編集

委員会報告では年報 31 号の査読状況の報告がなされました。また西村雄郎学会賞担当理事より、第 8 回日本都市社会学賞（磯村記念賞）の選考が開始されたことが報告されました。さらに、国際交流委員会からは来年度の韓国地域社会学会派遣に関する報告がされました。また、終身会員、入会および退会の承認、次回大会および次回大会等について審議されました。

4. 企画委員会報告

<第 31 回大会>

第 29 回大会より新たな試みとして設置された「テーマ報告部会」を、第 31 回大会でも継続して開催いたします。これは、自由報告部会とテーマ部会の中間的な位置づけの部会であり、緩やかな共通テーマを設定したうえで報告者を広く募集する部会です。この部会は、これまで日本都市社会学会への参加の経験がなかった方にも（会員になることによって）報告していただき、学問的蓄積を共有することを目的としています。本年度のテーマは「都市と自治体政策」と設定しました。詳しくは前ページの「テーマ報告部会報告者の募集について」をご覧ください。

またテーマ部会は、「都市政治と社会運動」と題して開催いたします。近年の政治変動に関する実証研究や、これまで都市社会学が蓄積してきた社会運動に関する実証／理論研究をふまえて議論していきたいと考えております。そしてシンポジウムでは、「都市のアイデアとその展開」というタイトルで企画いたしました。「都市のアイデア」を先行させて行われている「都市づくり」の可能性と問題点を明らかにしていきたいと考えております。なお、テーマ部会およびシンポジウムの趣旨については、以下に掲載されていますのでご覧ください。

(常任理事・企画委員長 浅川達人)

<テーマ部会>

「都市政治と社会運動」

<趣旨>

近年、大阪に代表されるように、改革派とよばれた知事・市長や無党派層の動向が、都市政治のあり様を左右してきた。一方、東日本大震災以降の「反原発」運動に象徴されるように、あらたな都市社会運動の展開が脚光を集めている。

このような現実を受けて、今回のテーマ部会では「都市政治と社会運動」の連関を、近年の政治変動にかんする実証研究や、これまで都市社会学が蓄積してきた社会運動にかんする実証／理論研究をふまえて議論していきたい。

具体的には、以下の三点を意識した部会の構成を検討している。第一に、改革派とよばれた知事・市長の支持基盤に焦点をあてることである。第二に、これまでの都市社会運動の歴史的系譜を整理したうえで新たな動向を把握することである。第三に、大都市だけでなく地方都市を舞台とした運動の展開も視野に入れることである。これらの視点を中心とした報告および討論から、「都市政治と社会運動」研究の今後の課題と展望を考えていきたい。

(企画委員 原田 謙)

<シンポジウム>

「都市のアイデアとその展開」

<趣旨>

都市は固有の「時間」を持ち、「記憶」を紡ぎ、「都市の文化」を育んできた。グローバル化がすすみ、「都市の個性」が問われる中で、いくつかの都市で「都市の文化」を「都市のアイデア」（都市づくりの理念）に再編し、計画化、具体化した「都市づくり」がすすんでいる。

これをふまえ、今年度の都市社会学会大会シンポジウムは「都市の文化」、「都市のアイデア」、「都市づくり」、「都市の自立」をキーワードとして、さまざまな歴史、文化的蓄積をもつ都市が、「都市のアイデア」をいかなる

プロセスのなかで生成し、計画化したのか、それを具体化することでいかなる「現実」が現れたのか検討することによって、「都市のアイデア」を先行させて行われている「都市づくり」の可能性と問題点を明らかにしていきたい。

今回検討対象とする都市は、被爆都市として「恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として、広島市を平和記念都市として建設する」ことを目標に都市づくりを行ってきた広島市、「城下町」としての歴史的、文化的蓄積を背景に「創造都市として文化と産業の連環を推進し、より元気なまちづくりを目指す」金沢市、そして「熊本の固有の文化を見直し、新たな都市アイデンティティを確立することをとおして創造都市の可能性を追究していこうとしている」熊本市である。

報告者は、「平和都市」広島の都市づくりのあり方を建築学・都市計画史の立場から調査研究している石丸紀興氏（広島大学名誉教授）、金沢市が「創造都市」を都市理念としてかかげ具体化するためのプロセスに金沢市教育長として関わってきた石原多賀子会員、地域運動とかかわりながら創造都市熊本の可能性を追究している渡部薫氏（熊本大学教授（地域政策論））である。

「平和都市」と「創造都市」、かかげる「都市のアイデア」は異なるが、「都市のアイデア」にそった形で、あるいは「都市のアイデア」を状況適応的に修正しながら、「都市づくり」をおこなっていることは三市に共通する点である。このシンポジウムを通して、これら都市の「現実」が明らかになるとともに、会場における討論を通して新たな「都市づくり」の方向性が見いだせればと考えている。

（理事・企画委員 西村雄郎）

5. 編集委員会報告

昨年12月10日に第2回編集委員会を開催し、2013年9月発行の『日本都市社会学会年報』第31号の編集方針などを検討しました。現在、31号の編集作業が進行中です。特集は、第30回大会の記念セッション「都市社会学一軌跡と展望」です。9月の大会の折に参加者にはお渡しできるよう、鋭意、編集作業を進めていますのでご期待ください。

（常任理事・編集委員長 江上 渉）

6. 『日本都市社会学会年報』32号（2014年発行）自由投稿論文・研究ノートの募集について

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』32号（2014年発行）に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」および「書評リプライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、『年報』31号（2013年9月発行）に掲載される編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿（3部）を2013年11月30日（消印有効）までに、下記の編集委員会事務局あて、余裕をもって郵送して下さい。なお25号より英文要約を掲載することとなっております。投稿ご希望の方はこの点お含みおき下さい。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。

投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

〒171-8501

東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学社会学部 江上渉研究室内

日本都市社会学会編集委員会事務局

電話：03-3985-4714（直通）

FAX：03-3985-2833（社会学部受付）

E-mail：egami@rikkyo.ac.jp

※なお、2013年9月に編集委員会事務局が移転する予定です。それとともない、原稿提出先の住所も変更になる見込みですので、新事務局決定しだいお知らせいたします。

（常任理事・編集委員長 江上 渉）

7. 震災関係特別委員会報告

2012年12月22日(土)に第3回社会学4学会合同研究・交流集会在法政大学市ヶ谷キャンパスにて行われました。今回のテーマは「原発避難を捉える／考える／支える(2)」であり、2012年6月17日(日)に明治学院大学にて行われた第2回社会学4学会合同研究・交流集会のテーマを発展的に継承したものでした。

また、2013年2月22～23日には、第4回社会学4学会合同研究・交流集会および視察が行われました。22日(金)の視察では、宮城県の沿岸部に位置する名取市(閑上地区)および岩沼市を訪れ、市役所の方から復興の現状について説明を受け、仮設住宅で暮らす住民の代表者からお話を聞くことができました。また、23日(土)午前の研究報告会では3本の研究報告がなされ、午後は「地震・津波・原発災害から2年一被災地復興の現状と課題を考える」というタイトルでシンポジウムが行われました。

2011年3月に第1回目が行われた社会学4学会合同研究・交流集会ですが、岩手、福島、宮城と会場を変えながら4回が開催され、東日本大震災の被災地を一通り概観することができました。

(常任理事・震災関係特別委員会委員長 浅川達人)

8. 国際交流委員会報告

1. 来年度の韓国地域社会学会は、5月3・4日に韓国・春川市にある翰林大学(ハンリム大学)で開催されます。テーマは「社会的企業・協同組合・持続可能な地域発展」です。同学会との研究交流協定に基づき、日本都市社会学会からは中澤秀雄会員が出席し報告します。なお、本大会には谷富夫会長も招待されており、出席しさらに交流を深める予定です。

2. 2014年7月に開催されるISA横浜大会でのセッション(RC21)企画立ち上げのため、国際交流委員会内にワーキングチーム(リーダー立山徳子委員)をつくり、国際学会経験者等を中心に企画への参加募集を募りました。その結果、複数の企画応募がなされております。また、地域社会学会が企画したセッションがRC21において採択された場合、日本都市社会学会会員にセッション参加の呼びかけを行う予定です。

(理事・国際交流委員長 稲月 正)

会員異動

終身会員(2013年3月3日理事会承認)

倉田和四生(関西学院大学名誉教授) 齋藤吉雄(東北大学名誉教授)

新入会員(2013年3月3日理事会承認)

<関東> 大槻茂実(首都大学東京) <中部・関西> 田保顕(大阪市立大学)

退会(2013年3月3日 理事会承認)

<東北> 羽淵一代(弘前大学) <関東> 岩瀬庸理(帝京大学)

規約第11条による会員資格喪失者(2013年3月31日付)

油川洋(尚絅学院大学)

石原紀彦(名古屋大学)

徳村光太(日本総合研究所・慶應義塾大学SFC研究所)

堀 崇樹(㈱メディカル・ハンプ)

岩永真治(明治学院大学)

須藤伸一(富士吉田市立吉田中学校)

野呂芳明(東京学芸大学)

伊藤史朗(フィリピン大学大学院)

角 能 (東京大学大学院)
中村由佳 (筑波大学大学院)
柳信寛 (東京都立大学大学院)
伍国春 (名古屋大学大学院)
鄭 南 (名古屋大学大学院)

永井良和 (関西大学)
三浦倫平 (東京大学大学院)
若林敬子 (東京農工大学)
張雲武 (厦門大学)
任雪飛 (ミシガン州立大学)

学会事務局より

◆会費納入のお願い

学会費の振替用紙を同封させていただきました。まだ学会費を納入されていない会員の方は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入してくださいませよう重ねてお願い申し上げます。また、2012年度会費を納入していただきました会員の皆様は2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)の会費も、できるだけ早めに納入くださいますようお願い申し上げます。

なお、2013年度より一般会員の年会費が6500円となりました(学生会員は4000円のまま据え置き)お間違いのないようお願い申し上げます。

なお、本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関(一部を除く)と相互に振込ができるようになりました。振替用紙を使わずに振り込むことができますし、振込記録は事務局宛に送られてきますので、事務局が振込を確認することもできます。他の金融機関から本学会の口座に振込む場合は次の通りです。

銀行名 ゆうちょ銀行
預金種類 当座
店番 019
店名(カナ) 〇一九店(ゼロイチキューウ店)
口座番号 0703976
受取人名 ニホントシシャカイガツカイ

◆会員資格の喪失について

前号のニュースでもお知らせしましたが、今年度から会員資格喪失に関する規約が総会にて変更されました。これまで、年会費5年間の滞納で会員資格喪失でしたが、**今年度から年会費3年間の滞納で会員資格を喪失**します。スムーズな事務局運営のためにも年会費納入のご協力をお願いします。

◆次回第31回大会の総会では役員選挙が予定されております。